

第4学年図画工作科学習指導案

授業者 附属世田谷小学校 大櫃重剛

1. 題材名

「コップ星人の変身を目げき！」

2. 題材の目標

(1) 図画工作科としての目標

自分の操作によって段階的に形を変化させるプロセスを二人で撮影し合う活動を通して、互いの発想のよさを感じる力、さらに自分らしい方法を探究し、創造する力を培う。

(2) 汎用的スキル

自分らしい表現を探究したり発見したりすることを通して協働的な問題解決力を培う。**協働する力**

(3) 態度・価値

紙コップの形を自分らしく変化させようと二人で操作したり撮影しながら鑑賞したりする活動の過程で、協力し合う心や仲間を受容し共感・尊敬する態度を培う。**他者に対する受容・共感・敬意**

3. 児童の実態

児童は、これまで積極的に取り入れてきたグループ活動において、すすんで話し合い、楽しみながら活動している。しかし「アイデアが思いつかない」「友だちに見せるのは恥ずかしい」「自分ひとりですくったほうが思い通りにできる」などの声からは、創造的思考が自分や友だちのよさに気づいて高め合うところまで到っていないことがわかる。なかには「友だちの真似をすれば、私にもできるかも」という声も聞こえるが、安直な模倣だけで発想の広がりが停滞してしまっている場面に出会うこともある。このように自他の内面への興味・関心と共に不安感を持ちはじめている児童の意欲を高める手立てを考えたい。

本題材では、紙コップが変形・変態（transform）する過程をカメラでコマ撮りする活動を通して今まで見たことのない動画を楽しみながら、実は自分たちの操作についてじっくりと考え、何度も振り返るプロセスを重視している。そこで、児童の発想が個々のかかわりによって意欲的に広がっていく環境をつくり児童の思考の変容を記録するため、2名につき1台のデジタルカメラを用意した。4人グループだと話し合う場面には適した集団規模であるが、本時においてペアの工夫を観察する以外の待ち時間はストレスとなってしまう。次々と発想を照らし合わせ競わせながら自分のプロセスをつくりあげていくスピード感を大事にしたい。また、活動の中盤では学級全体で互いの再生モニタを覗き合ったり、プロジェクタで投影したりしながら集団としての学びにつなげていき、そこでの気づきを再び活動へ生かしていく姿を期待した。

4. 題材について

①教科から見た特性

本題材で扱う紙コップは、本来の用途としてのデザインの他に、可塑性のよさ、立体としての安定感、画材としての白さなどの特長があり、紙工作はもちろん今回のような立体作品によるコマ送りアニメーションの導入素材としての可能性がある。また、本題材における環境の設定は、作者自身による見直し、友だち同士での鑑賞、そして教師との対話（評価）のそれぞれにおいて有効な多角的な評価の観点を含んだ資料となる。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

自分の操作によって紙コップの形を段階的に変化させるプロセスを二人で撮影し合う活動を通して、互いの発想のよさを感じる力、さらに相手の考えを受け入れつつ自分らしい方法を探究し、創造する力を培う。また活動の中盤では、学級全体で鑑賞し合ったり、プロジェクトで投影したりしながら個々の気づきを集団としての学びにまとめ、再び自分の表現へ生かそうとする姿をねらっている。

5. 単元計画と資質・能力を育成する主な手立て（全2時間 本時2／2時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (1時間)	・コマ送りのしくみを知り、形の変化や動きに関心をもって連続静止画（アニメーション）をつくる。	○協働する力	○互いの発見や考えをリアルタイムでチェックし、相談した上で次の表現活動への意欲を高める自己評価の装置としてデジタルカメラを活用。 ○操作と撮影の係を交互に担当する流れ。
第2次 (1時間)	・自分らしく形を変化させる操作の段階に注目して撮影する活動を通して、互いのプロセスのよさを感じ合う。	○他者に対する受容・共感・敬意	○次々と発想を照らし合わせながら自分のプロセスをつくりあげていく活動に適したグループ構成。 ○作者と鑑賞者の間での紹介や質問、感想など、意見を交換しやすい場の設定。

6. 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

自分らしく形を変化させる操作の段階に注目して撮影する活動を通して、自他の発想や工夫のよさを感じ、伝え合い、次の作品へ工夫を取り入れようとする。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・ 予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導 入 (20分)	この紙コップは10コマ撮影すると「コップ星人」に変身します。友達と交代しながらコップ星人が変身する様子を撮り、お互いの変身方法や動かし方の工夫を見合ひましょう。 ○自分らしく紙コップの形を変化させる操作の段階に注目して10コマずつ撮影する。 ○撮り終えたら、変身(操作)した過程と一緒に鑑賞し、ペアと撮影役を交代する。	◇子どもの発表を受けて実際に操作の例をいくつか実演して見せる。(はさみの動かし方、切断面のパターン) ◆自分の発見した操作を紹介しながら、次の操作について想像して話している。(折り返し方、ペンに巻いてクセをつける など)
展 開 (15分)	○撮影した動画を見合い、互いの操作方法や動きのよさを伝え合う。 ○ペアで1人ずつ(前後半5分)他の作品(変身の動画)を見て廻り、付箋紙に感想を書き渡す(または質問する)。 ○全体でも意見を発表し合い、次の活動へつなげる。	◇鑑賞を楽しむだけでなく、思いを伝え合う方法として作者からの紹介、作者への質問や感想など、意見を交換しやすい場をつくる。 ◇「切り方」「折り方」「曲げ方」「形全体の動かし方」など児童の気づきを分類して共有する。 ◆自分と友だちの発想のよさを感じたり伝えたりしながら、次の作品へ生かそうとしている。
まとめ (10分)	○鑑賞を通して気付いたことを次の活動に取り入れて、自分らしい操作方法や動かし方をさらに工夫する。	◆鑑賞を通して気付いたことを取り入れて、自分らしい操作方法や動かし方をさらに工夫している。